

40. 痴呆症状を呈した患者に対する HBO の効果

浅野良夫*¹⁾ 下澤定志*¹⁾ 岩田欣造*¹⁾
 天野繁見*²⁾ 大隣洋二*²⁾ 池内芳尚*³⁾
 井上健二*³⁾ 蔵前 仁*³⁾

*¹⁾刈谷総合病院脳神経外科
 *²⁾ 同 高気圧酸素治療室
 *³⁾ 同 生理検査室

【目的】高齢化社会を迎え、痴呆症状を呈する患者が増加傾向にある。痴呆に対しては、脳循環代謝改善剤等の投与が一般的であるが、その有効性にはなお限界がある。そこで、我々は痴呆症状を呈した患者に HBO を施行し、その有用性を検討した。

【対象と方法】対象は痴呆症状を呈した9名で、HBO 施行前後に長谷川式簡易知能評価テスト(HDS)および Mini-Mental State(MMS)と近年痴呆の客観的評価法として注目されている事象関連電位(P300)をほぼ同時に記録し、検討した。なお、P300 潜時は、Fz, Cz, Pz を電極とし、oddball 課題により低頻度刺激を30回加算し、求めた。

【結果】HBO 施行した患者の内訳は、男5名、女4名、年齢は50~83歳、平均66歳であった。原因疾患は脳梗塞5名、脳動脈瘤2名、脳出血および頭部外傷各1名であった。罹病期間は1~10ヵ月であった。HBO の回数は7~10回で、HBO 前のHDSは4.0~22.0点、平均14.3点、MMSは9~27点、平均20.4点であった。HBO 後のHDSは11.0~26.5点、平均19.6点、MMSは10~29点、平均23.0点であった。HDS および MMS とともに HBO 後その多くはスコアが改善した。一方、HBO 前においてP300潜時はFz平均443.7msec、Cz 平均445.0msec、Pz 平均443.6msec で、HBO 後はFz 平均383.5msec、Cz 平均384.4msec、Pz 平均384.4msec と HBO 前に比較して有意に短縮した。また、P300 潜時短縮とHDS および MMS 改善とは負の相関を認めた。

【結論】痴呆症状を呈した患者の HBO 前後にHDS および MMS スコア、P300 潜時を比較検討し、HBO 後に改善を認め、HBO は痴呆に有用性があると考えられた。

41. 当院での一酸化炭素中毒に対する高気圧酸素治療

三谷昌光 八木博司
 (八木厚生会病院)

一酸化炭素(CO)は生体組織への酸素供給を著しく阻害することによって中毒を惹起する。生体内の低酸素状態の是正という点から鑑みて、高気圧酸素(HBO)治療はCO中毒、特に急性期に対し最も優れた方法であり確立されたものと信じられてきた。

ところが、本年5月アラスカで開催されたUHMSのAnnual meetingに於て、急性CO中毒に対するHBOとNBOのRandomized prospective studyの経過報告として両者間に有意差が無いことがオーストラリアとフランスから発表された。

当院では過去7年間に40例(15~75歳、男24例、女16例)のCO中毒患者に高気圧酸素治療を行った。治療結果について解析し、問題点につき検討した。

ルーチン検査として、CBC、血液生化学検査、血液ガス、心電図、脳波検査、頭部CTと最近の症例では頭部MRI、Carbon Monoxide Neuropsychological Screening Battery(CONSB)および一部の症例では長谷川式テストを行った。血中CO-Hb濃度は測定していない。

高気圧酸素治療は2~2.5ATA、90分、1日1回重症例では2回行い、脳波所見およびCONSBを指標として治療回数を決定した(1~50回、平均10.8回)。

40例中36例は急性期に治療を開始し、33例は全例完治し、2例は遷延型へ、1例は間歇型の経過をとったが、HBO治療を続けることにより3例ともやや改善した。残りの4例は間歇型として他院より紹介されHBO治療を開始したものの、3例は殆ど効果がなかったが、1例は症状並びに神経学的検査のみならず画像所見も著明に改善した。この症例については詳しく報告する。

軽症例ではNBOでも充分回復し得た可能性があり、HBOとの差はでにくいものと思われる。中等一重症例では明らかにHBO有効と思われる例もあり、どのような症例にHBOは有効なのか今後検討を続けたい。